秋高同窓会だより

題字は第六代塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL　0188(32)9553
印刷所
秋田マイクロ写真
印刷株式会社

平成7年 同窓会入会式

新会員四六一名を迎える

去る三月六日、母校体育館において、平成7年同窓会入会式が、多数の保護者、役員参列のもとに挙行された。先輩からの温かい励ましの言葉を受け、新会員は思いを新たに母校を巣立った。

井上房子氏

式は伊藤守一事務局長（S21卒）の開式の辞の後、白澤啓氏（S48卒）の司会で進められた。最初に挨拶に立った丸山会長は、「ローマ法を通って、しかしローマ法を越えて」というドイツの法律学者イエーリングの言葉を引用し、基礎的なものを十分に身につけ、その上に新しい価値を作り出すことの重要性を説いた。簡潔な中にも、新会員の今後の人生に大きな示唆を与えてくれる感銘深いお話しであった。

それに続いて、当日出席された役員の方々の紹介があり、その後、先輩激励の言葉として、井上房子副会長（S29卒）から新会員への心のこもった餞の言葉が述べられた。その中で井上先輩は、「これからの長い人生には、おそらくいろいろな苦難が待ち受けているであろう。皆さんはその苦難を、強靱な意志とひたむきな努力で克服していってほしい。人間は苦難を経験し、それを乗り越えて初めて本当の意味での人生の喜びや幸せを感じ取ることができるのであり、又、偉大な仕事を成しうるのである」と、友人や、偉大な先人達の例を挙げて熱っぽく語りかけ、新会員のみならず、参列者全員に深い感銘を与えた。

続いて、新会員へ記念品（校章をかたどった文鎮）が贈呈され、最後に「校友会歌」を高らかに斉唱して式を閉じた。

会費納入についてのお願い

本年度から導入した全会員会費制一人二千円納入状況は極めて順調だが、納期が9月いっぱいなので、納めておらない会員は、是非納期を守られるようお願いいたします。　事務局

提言　同窓生と母校

中山　健（昭8卒）

秋田高校同窓会は学校と密接な関係のもとに発展してきた。特に創立百二十周年を契機として同窓会が画期的な活性化を実現し、また学校も学業にスポーツにいっそう成果を挙げつつあることはまことに喜ばしいことである。

高校時代は立志の時期である。若者は人生というものを考え、自分はどう生きたらよいかを真剣に探求し始める。ルイ・アラゴンは「学ぶとは誠実を胸に刻むこと。教えるとは共に希望を語ること」と言っているが、特に高校教育はこの人生への希望を育てつつ学業とスポーツの両立を目指して日々誠実な努力を積み重ねるものでなければならない。こうして、真に若々しい生気に満ちた学園が実現するのである。

私は長らく母校に在職したおかげで、時々年次別同窓会に招かれる。どの会でも在学時代の懐旧談に花を咲かせ、あらためて友情の尊さをかみしめる。そして、校歌や応援歌の斉唱をクライマックスとして散会し、青春の日への熱い思いを抱いて帰途に着く。そのとき不思議にみんな明日へのファイトがわき上がるのを感ずるようである。立志の時代へ立ち返るからであろう。

総会・支部・年次別を問わず進んで参加し、母校への思いを新たにしたいものである。

また、同窓生は後輩に思いを寄せ母校の発展を心から願う。秋田高校は文武両道・自主自律の伝統精神のもとに、日々の努力の過程を大切にする教育の本道を歩み続けてきた。高校教育が単に有名大学への進学率やスポーツの全国制覇のみを追う結果主義に陥ってならないことはいうまでもない。例えば野球の甲子園大会出場も、この本道に立ったうえでの成果であるから、同窓生をはじめ心ある人々は真に称賛と激励の拍手を送るのである。

なお、後輩は先輩の熱い期待にこたえて、その後に続こうとする。この精神もまた教育上大切である。その意味において、優れた同窓先輩の講演は有意義である。私は旧秋中二年生のとき、町田忠治農林大臣の親しく語りかける講演を聴き大きな感銘を受けた。こうした講演は従来も行われてきたが、学校と同窓会との緊密な連携のもとに、さらに計画的に実施するのも有意義であろう。その際、講師がその道に優れた業績を持つだけでなく、後輩に対する強い愛情と後輩の信頼をかち得る誠実さの持ち主であれば、いっそう効果的なものと思われる。

祝栄誉賀　おめでとうございます

この春の叙勲で、秋高同窓生から五名の受章者が出た。勲二等瑞宝章がお二人。現同窓会長の丸山健氏と東京在住の会社社長の加賀谷誠一氏。また叙勲ではないが、映画監督の岩崎雅典氏が「サシバ海を渡るタカ」で内閣総理大臣賞、直木賞作家の西木正明氏が新田次郎文学賞の栄誉に輝いた。同窓として喜ばしい限り。ご紹介する。

叙勲

丸山　健氏

略歴　秋中（昭14卒）、山形高校、東北大学法学部卒。憲法とドイツ法が専門で、秋田大学、東北大学を経て静岡大学へ。法学博士で昭和52年から2期5年、静岡大学学長。60年から3年、秋田経法大学学長。米国ネブラスカ名誉州民。

（関連記事四面）

加賀谷誠一氏

図らずも勲二等瑞宝章の栄に浴し、身に余る光栄です。昭和二十二年東大電気工学科卒業後(株)フジクラ（旧藤倉電線）に入社し、電気エネルギー、情報通信に不可欠な電線および光ファイバー事業を永年にわたり推進してきました。後輩の皆様、人生を深く耕すことも心掛けて下さい。

略歴　秋中（昭17卒）、山形高校、東大工学部卒。藤倉電線に入社、海底電線ケーブルを民間人としてめずらしい藍綬褒章受章。昭和54社長、平4会長、平五相談役

『須磨弥吉郎登場』
西木正明
拙著『夢幻の山旅』が新田次郎文学賞をいただいた際には、同窓の皆様から暖かいお祝いをたまわり、感激しております。『同窓会だより』発行直後の七月一六日には、秋高の先輩須磨弥吉郎氏が重要な役割を担って活躍する現代史ミステリー『梟の朝』が、文芸春秋から刊行されます。山本五十六の副官が主人公ですが、物語を通じて、ありし日の須磨先輩をしのんでいただければ幸です。

（昭34卒―早大）
（関連記事五面）

西木正明氏

栄誉

総理大臣賞　記録映画
サシバ海を渡るタカ
岩崎雅典

日本に生息するワシやタカの生態記録にこだわってきた。自然界のシンボルとして。〝サシバ〟は繁殖のため東南アジア方面から飛来する中型のタカ。子育ての映像を撮りながらみえてきたもの。それは変貌するの生息地となる里山の消息である。ワシタカ三部作のうち肩の力を抜いた作品が評価されいささか戸惑っている。

（昭34卒―早大）
（関連記事五面）

岩崎雅典氏

新校長に松岡正樹氏（30卒）

略歴　秋田高（昭30卒）、秋田大学、金沢大学教育学部歴史専攻科卒。大曲高教諭を振り出しに、秋田南、秋田高へ。県教育センター指導主事から秋田高教頭、能代工業高校長を経て、母校校長。生徒から校長と母校4回回遊が自慢。

（関連記事四面）

天上天下

▼YBC山形放送の夕方ワイド「ぴよぴよ卵ばくだん」が放送した山形県立米沢東高校放送部制作のビデオ作品「381　バトル」を見た。ユーモアに溢れた作品で出演者の表情もよく画面を紹介できないのが残念だ。

▼画面は、テストに備えて「覚えろ・よく考えろ・勉強しろ」で始まる。「381」は、なんと一年間のテストの回数なのだ。「テスト好きですか？」答え「大嫌い・好きな奴なんかいない・回数が多すぎるから」

▼テストは、定期が35回・課題が18回・月例が32回・小テスト233回。教科別では、英語が最も多く212回、国語64回、数学26回と続く。「テスト回数を減らして」の願いに教師は「ダメです」の一言

▼教師にはそれぞれ考えがあって実施しているわけだが、生徒は「こんなにテストを受ける必要があるのだろうか・部活をもうちょっとやりたい」など悩んでおり、テストが本当に自分の役に立つのだろうか聞く

▼卒業生は「役に立つ・知識があると世の中楽しくなることが沢山ある」などの答え。テストの回数が多すぎるのかどうかはともかく、生徒たちは「今、自分にとって一番大切なものは何か、今しかできないこともある」と考え話し合う。

▼秋高のテストがどのくらいの回数があり、生徒たちがどのように考えているのか分からない。進学者が多いだけにテストは避けられないものだ。が、今できることは、今全力を尽くしてやり進学したら何をするのか。誰に言われなくとも考えておくことが必要だと思う。

▼作品のラストは「でもやっぱりテストはイヤダー！」

会員会報

卒業式・新入会員入会式の分離挙行が決まる

常置委員会　異動

▼企画委員会
㈱軽部和夫←小野健爾
▼広報委員会
㈱安藤巳智子←斉藤裕義
▼名簿委員会
副委員長　那波伊四郎
（五十嵐和子・死亡）
▼財政委員会
委員長豊口祐一←田村義智
また委員に斎藤信郷44卒

▽企画委員会（4月14日）
小玉副会長以下12名の委員出席。会場泰山荘。当面の行事日程中「総会」について相談。7月15日（土）か16日を決め、会長・副会長の裁断を仰ぐ。また「若年次（49卒～60卒）」対策として、二学期以降「どんな案件」で行うか、状況を見て判断する。学校側から「卒業式と同窓会入会式」の分離を提案。理由①長時間のため生徒に疲労感がある。②祝賀会があるので、担任と卒業生の別れの時間がない等あったが、大きな問題なので、後の役員会に委ねる。

▽当番年次打ち合わせ会
4月25日（火）、第一会館にて開催。大友企画委員長以下21名出席。
1、総会について―期日を会長・副会長に委ね、日程など昨年どおり。12時半より、支部長会議。14時、総会。(1)平成6年度事業報告・決算。(2)平成7年度事業計画・予算案など。
2、講演者の選考―39年次より、「人選」は39年次に任せてくれという申し出があって、後に講演者を39年次の「**松本岸雄氏**」（生徒会長・JR東日本工事事務所）に決定。入会式激励者の選考、「だより」広告年次別分担等話し合った。

▽広報委員会（5月10日、5月29日の二回）
1、4社から印刷見積りがあったので、印刷所の決定を行い、担当副会長および会長の承認で「秋田マイクロ」に決定。また第46号では、丸山会長の「春の叙勲」や校長、教頭の異動等で六面を計画。

▽財政委員会（5月11日、5月30日の二回）
全会員会費納入にともなう一年目の予算案ということで、二回にわたって慎重に編成上の話し合いを行った。

▽名簿委員会（5月16日）
名簿特別会計の報告から今年度の業務計画を話し合った。

▽役員会　（6月2日）
1、これまでの各常置委員会の報告と事務局より会務報告を行う。
2、企画委員会に問題提起された「卒業式と同窓会入会式の分離案について協議し今年度より「**入会式**」を**独自に行う**ことにした。

慶祝

勲二等瑞宝章
丸山　健（14卒）
勲二等瑞宝章
加賀谷誠一（17卒）
勲四等瑞宝章
岩谷　文雄（15卒）
勲五等双光旭日章
加藤　周二（13卒）
総理大臣賞（記録映画）
岩崎　雅典（34卒）
新田次郎文学賞
西木　正明（34卒）
（鈴木　正昭）

教職員異動

◇退職
椎名　光雄校長
小野　健爾先生
武藤　充子先生

◇転出（転出先等）
河先　進教頭
（湯沢商工高校長）
桝田　浩司事務長
（教育庁福利課課長）
藤森　健司先生（秋田北）
菊池　勝俊先生（警察学校）
金　節男先生（土木部都市公園建設事務所保健体育課）
渡辺　明先生（生活環境部交通安全対策課保健体育課）
山本　長幸先生（本荘）
奈良　一崇先生（大館鳳鳴）
五十嵐恒憲先生（本荘）
小林　昌子主査（男鹿）
渡辺　憲主査（教育庁）
佐藤鉄行主任技師（秋田養護）
淡路　正先生（湯沢）
橋本　澄子先生（秋田南）
石塚　淳子先生（秋田中央）
佐川　玲子さん

◇転入
松岡　正樹校長（能代工業）
嵯峨　利昭事務長（秋田北）
椎名　延子先生（秋田北）
目黒伊久夫先生（本荘）
目黒　大作先生（秋田南）
安藤巳智子先生（秋田中央）
佐藤　健公先生（新屋）
菊池一二三先生（青年の家）
佐々木晃久先生（由利工）
近藤　周平先生（大館鳳鳴）
伊藤　光喜先生（秋田工定）
渡部　正軌先生（秋田西）
矢尾　寛主査（スポーツ会館）
佐々木　仁主査（秋田工）
藤原文雄主任技師（秋田南）
市川　博規先生（新採用）
長町ゆかり先生（講師）
田口　能祐先生（講師）
佐藤　国夫先生（講師）
太田　稔先生（講師）
荒川　宏造先生（講師）
露崎由美子先生（講師）
小野　健爾先生（講師）
山崎真理子さん

平成7年度入試をふりかえって

進路指導主事　柴田義弘

妥協のない自己実現を目指して果敢なチャレンジのめだったこの春のタタカイ、県外のライバル達とのしのぎあいの結果を紹介する。

概略、卒業461に対し、進学者実数は国公立190、私立94、短大各種17、就職3、約160が再挑戦という比率。大学入試センター試験800点満点の582点は東北3位の好成績、幸先のいいスタートをきった。結果的に国公立合格は東北唯一二百突破の210、現浪合わせてこれも唯一、三百突破の305、いずれも昨年に続いてトップである。東北大学は近県上位校軒並み数を下げる中、現役は22から24、現浪合わせて35（昨年30）と増やした。この流れは今年も伸ばしたいところだが、一、二年時には百名を越える志望者がいるのだから、まだまだ満足できない。東大も現役5（6）、現浪8（7）と面目を保ったわけだが、昨年より受験者実数が増えた分、今一歩数を伸ばしたかった。

後期でもしぶとく2獲得。以下現役で東工大も4（4）は立派。北海道12（8）、筑波9（7）、東京外語3（2）、お茶の水4（2）で増加し、一橋1（3）、京都1（3）は若干減。新潟28（25）は堅調といったところ。

そうした中、東北近県、岩手2（6）、山形4（10）、福島1（6）がはっきり減。秋田大学も昨年の65から43。医学が昨年のゆりもどしで倍率3.8から10倍へ大幅アップ。現役5（8）は今年は推薦のみ、浪人は2（11）だった。県内占有率は34％から19％へと大幅ダウン。

隔年現象でどうなるかだが楽観できない。鉱山も県内占有率は35％と全国区。地元だから受けてみようか、では入れない。

全国的には地元志向、国公立回帰といわれている中そういうわけで本校の国公立大進学は昨年より30減。

活用される進路学習センター
～昼休みの一コマ～

外へ出て戦うことも求められている本校でもあり、現三年生の動向に注目が集まる。

私立大の成果もめざましい。合格総数は195（150）におよんだ。早稲田20（11）、慶応9（5）、明治15（11）、法政7（3）、立教5（1）、青山学院9（5）、学習院5（1）と、簡単には実現できない数字である。

県外進路関係者との会議でも、本校の今回の数字、難関大の成果にしても、国私のバランスにしても注目の的。秋高生のたゆまざる頑張りにより、来春はさらに質の高い進路をめざしてほしい。

大学合格者一覧表（抜粋）

大学名＼項目		平成7年度 現	浪	計
北海道		12	6	18
弘前		7	5	12
岩手		2	5	7
東北		24	11	35
山形		4	3	7
秋田	(教)	23	16	39
	(医)	5	2	7
	(鉱)	15	7	22
福島		1		1
茨城		1	2	3
筑波		9	1	10
埼玉		6	4	10
千葉		6	1	7
東京外語		3		3
東京		5	3	8
東京学芸		6	1	7
電気通信		3		3
東京工業		4	1	5
お茶の水女子		4		4

	現	浪	計
一橋	1		1
横浜国立	3	2	5
新潟	28	5	33
金沢	2	2	4
京都	1		1
東京都立	2	1	3
国公立計	210	95	305
青山学院	9	7	16
学習院	5	3	8
慶応義塾	9	11	20
上智	1	4	5
中央	15	18	33
津田塾	5		5
東京理科	9	13	22
日本	9	20	29
法政	7	10	17
明治	15	12	27
立教	5	2	7
早稲田	20	14	34
立命館	6	17	23
私立計	195	287	482

会員随想

雑感

菊池由夫（昭23卒）

同窓生というものはありがたいものである。東京に出て間もなく三十年にもなろうとしている。そんな中で同窓の人と会ったりすると、何となくほっとしてきもちが和らぐのを感ずる。まして懐かしい秋田弁で語りかけられると、心がめろめろとなりそうになる。不思議なものである。

私は昭和十八年、雄物川町から秋田中学に入学し、一年D組に入れられた。当時我国は大東亜戦争たけなわで、戦局は我に利あらず、学校では配属将校が巾を利かし、上級生は勤労奉仕と慌ただしい毎日が続いていた。われわれ生徒は巻脚半に足駄という出立ちで戦闘帽を冠っての登校であった。運動場はコークスが敷き詰めてあって、裸足で歩く時の足の痛さは今でも思い出す。

学校では当時豚を飼っていて、当番者はリヤカーを引いて、近所の家庭から餌を集めて回ったものである。

また、中国からは中学の先生が研修に来校され、何日間か私の隣の席で授業を見学し帰国された。そんな状況の中、先生方は一生懸命に授業を担当され、秋田中学の伝統と矜持とを鼓吹されたのである。実社会で思うことは、伝統を重んずる学校の卒業生には、そこはかとした品性が窺われる。やはりどこか違うのである。秋高百二十年誌には載っていないが、当時の国状を反映して、秋中では昭和二十年に一度だけ幼年学校組を編成した。ところがこのクラスの成績が他のクラスと比較して平均値が良くないことが判り、問題となったことがある。丁度今年の巨人軍のようなものである。その他にも記録に残されていない事では、羽城の復刊第一号を先輩と一緒にガリ板で印刷したこと、南京虫の降ってくる駅前の兵舎等々、諸々の事柄が走馬燈のように目に浮かぶ。

秋高の教育目標の中に「品性の陶冶」という一項目がある。真に当を得た目標であり、われわれにとって「頂門の一針」であった。

最近の世情はまさに混沌である。願はくば我が秋田高校が、世界の潮流に棹さして、その本流を驀地に進んで行っていただきたいと庶幾うものである。

略歴
昭和六年　雄物川町生まれ
・旧秋田中、幼年学校、旧制秋田高校（理科）を経て、東北大学医学部卒
その他
・東北大学第一内科入局
・大洗海岸病院内科医長
・伊豆逓信病院内科副部長
・愛誠病院内科部長
・同　副院長
昭和六十一年
水野病院副院長
現在　同　院長

秋高39会　次回の同期会は、平成8年8月10日（土）開催されます。

皆様方の積極的な御参加をお待ちしております。　会長　佐藤一誠

住所・TEL・勤務先等に変更のあった方は、御連絡ください。
（同期会名簿は、常に最新のものに更新しております）

渡部克忠　0188－28－4125（会社TEL）
0188－28－5294（会社FAX）
0188－28－4602（自宅TEL）

赤沼　侃　0188－63－9341（会社TEL）
0188－63－9347（会社FAX）
0188－28－5780（自宅TEL）

平成7年度の教職員の定期異動で、母校では17名もの退職・転勤が行われた。特にこれまで学校の舵取りをしてきた校長・教頭・事務長が代わり、加えて同窓会の事務局長まで交替した。以下ごあいさつを戴くわけだが、退職・転任者には労をねぎらいつつ感謝と今後のご健闘を祈り、新任の先生方には、存分に実力を発揮されることを願って、礼を尽くしてお迎えしたい。

感謝の心を込めて

椎名光雄（昭28）

学校創立百二十周年の記念すべきときに、母校の校長として在任できましたこと、本当に幸せに存じました。と同時に、輝かしい歴史と伝統を礎に、新たなる充実発展を期して力強い第一歩を刻むことを、最大の責任と決意しました。

椎名光雄氏

その幸せと決意を噛み締め、生徒に対しては機会あるごとに、「汝、浩然の気を養いしか」「汝、琢成に努めしか」と問い続けました。また、「学校は一人社会の孤島ではない」を基本スタンスとし、「現状維持は一種の後退である」との姿勢をもって、学校経営に当たって参りました。

お陰様で、全国的には稀有となった「文武両道」を具現する学校として、十分ではないとしても、目指す方向に歩を進めることができました。生徒諸君が、「自主自律の精神」をもち、理想の実現に努力した成果であります。また、「人の美を成す」ことに使命感をもち、誠心誠意ご尽力された先生各位のお力によるものであります。更に、我が子の健やかな成長を願ったご父母及び母校の名声の発揚を念じた同窓生各位のご支援とご協力の賜でもあります。誠にありがたく、心から感謝申し上げます。

教頭として

斎藤秀男

これまで十年間本校に勤務させていただきましたが、引き続いての教頭職ということで改めてその責任の重さを痛感いたしております。

この数年間、秋高も学校週五日制の月二回の実施や新教育課程の編成等を始めとする時代の変化や要請に、どう適切に対応するかという課題に懸命に取り組んでまいりました。

百二十年余の長い伝統に培われたすぐれた校風を継承し、文武両道、自主自律の精神のもとで、本校の教育目標の実現のために、今後とも一層の努力を傾けてまいりたいと存じております。

同窓各位の絶大なる御支援と御鞭撻を、心からお願い申し上げます。

斎藤秀男氏

▼略　歴
本荘高校、秋田大学学芸学部・中高課程国語科卒。大曲農業高校、湯沢高校、秋田西高校教諭を経て、昭和六十年四月から本校に勤務。本年四月に教頭となる。

椎名校長全国表彰
教育功労者に　陛下に拝謁

椎名光雄先生が平成六年度全国教育功労者として、文部大臣から表彰され、陛下に拝謁を許された。

略歴　秋田高（昭28）、秋田大学卒。毛馬内高、大曲高、横手高を経て、教育庁指導課指導主事、高校教育課管理主事。角館高教頭、湯沢商高校長、能代高校長、秋田高校長。退職後秋田福祉専門学校長

受験戦争真っ只中の日本列島であります。そうした中で、本校の不易の教育を堅持し続けることは極めて厳しいものがあります。しかし、本校ならば必ずそれを成し遂げることができると確信しております。

そのことを衷心から願い、同窓生皆様のご清栄をご祈念し、お礼と致します。

祝典に巡り合って

河先　進（昭31）

赴任した頃は残雪の見られた山脈もすっかり濃緑に変わりました。

秋高在職の五年間、自主自律・文武両道の校是のもと、学力の充実・品性の陶冶・心身の錬磨を教育目標として励むなかで、公私にわたり温かい御教導と御厚情をいただき、充実した毎日を過ごさせていただきました。誠に有り難く心よりお礼申し上げます。

河先　進氏

また、同期会、支部会、同窓会の折りに、恩師や先輩の皆様からいただきました激励のお言葉の数々は、本当に心強いものでありました。歴史と伝統に秀でた創立百二十周年の祝典に巡り合いましたことも、誠に幸運であり感激の極みでありました。進学は勿論、県民挙げて応援いただきました硬式野球部の甲子園出場を始めとし、軟式野球部、柔道、卓球などが全県に覇を唱えましたことも、文化部が目覚ましい活躍をしましたことも、実りある貴重な経験でありました。同窓生の一人として母校に奉職できましたこと、後輩の在校生とともに校歌を歌うことのできましたことの幸せをしみじみと感じる今日この頃であります。

規約の改正がなされ、同窓の意識の高揚が求められておりますが昨今でありますが、母校、同窓会の益々の隆昌と皆様の御健勝を祈念申し上げまして、転任の挨拶といたします。有り難うございます。

なお、河先進先生は、湯沢商工高校長に栄転なさった。

母校に赴任して

事務長　嵯峨利昭（昭34）

平成七年度の定期人事異動ではからずも本校の事務長を命ぜられました。母校に奉職することなどは考えてもおりませんでしたので、いささかの戸惑いもありましたが、現在は母校に奉職できた喜びをかみしめております。もとより浅学無能の身でありますので、この重責を全うできるものかと心配をしております。

私は昭和三十四年卒業ですから、当時の校舎は駅前にあり、木造の老朽校舎でしたが当時の学生生活と同時に懐かしく感じられます。

あれから三十六年、現在は市の郊外に近代的な校舎を持ち、男子と女子生徒がのびのびと勉学に励んでおり、隔世の感があります。

嵯峨利昭氏

本校の施設設備は、最近同窓会館や第二セミナーハウスの建設が行われ、今年は研修会館の全面改修が予定されております。母校の一層の発展充実のために、今後とも教育環境の整備に努めてまいりたいと存じますので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

▼略　歴
日本大学法学部卒
教育庁学務課、文化課
社会教育課、高校教育課
義務教育課、秋田県立図書館総務課長、秋田北高校事務長を経て本校に着任
（秋田市出身）

離任ごあいさつ

前事務長　桝田浩司（昭30）

平成五年から、二度目の奉職で二年間母校の事務長を勤めさせていただきました。その間浅学非才の私が曲がりなりにも職務を果たすことが出来ましたことは職員・同窓会の皆様のおかげであり、ご指導、ご厚情に心から感謝を申しあげます。

桝田浩司氏

二度目の勤務を振り返ってみると、百二十周年記念事業の執行、六年度の硬式野球部の春、夏連続甲子園出場のための募金に明け暮れした二年間だったような気がします。これは秋田高校の歴史の永さと、文武両道志向の実践の証で、やりがいもあり楽しく過ごさせていただきました。

全国の名門と言われた多くの高校の予備校化が言われる中で文武両道を両立させている秋田高校こそ理想の高校であると思っております。

まもなく高校野球が始まります。格調の高い校歌が甲子園に響きわたる日が近いことを期待するとともに秋田高校・秋高同窓会の益々のご隆盛と秋高同窓会員皆様のご多幸をお祈り申しあげ離任のご挨拶といたします。（現教育庁福利課長）

事務局を仰せつかって

田口能祐（昭22）

正直いって、役員の方々から事務局の要請があった時、たいへん驚いた。しかしながら、埃っぽい書斎生活より、根が出歩きが好きなので、ついお引き受けした。

かって、全県の国語研究会事務局を十五年もやらされ、「進歩発展」を目指して知恵を絞り合ったそれぞれの話し合いを「小まめ」に整理したものを積極的に実践したことがあった。比較的うまくいったので、その体験の型で行こうと思った。

古代中国に「創業守成」という言葉があるが、まずご迷惑でしょうが、会長・副会長さんのご指導をきちんと仰ぎ、歴史の偉大な流れに従うように、時に拡大し、時に逡巡し、時に大胆に展開する。

田口能祐氏

全国高校四番目の創立になる同窓会にふさわしい、格調高い発展の在り方を追求して参りたい。よろしくお願いします。

▼略　歴
県立秋田高校（旧制）理科、秋田大国語卒。平鹿、本荘を経て秋田高。東北国語研究会長賞、県教育功労章。詩集「街頭の百姓」「わが愛わが抵抗」随筆「葡萄園の粒々のために」出版。同窓会は「だより」創刊時尽力された一関吉美先生についで、二代目編集。百二十周年には校史委員長として「記念誌」刊行を束ね、昨年古巣の広報委員長に就任。

役員の皆さまに助けられて

伊藤守一（昭21）

平成元年二月中旬、選抜野球出場のための募金整理に来てくれ、と言われて事務局に来て仕事をしたのが、同窓会と関わりをもった始まりである。

伊藤守一氏

その後、名簿35号の代金徴収整理をやっているうち、平成元年度の総会で、桜谷事務局長が退任され、後任として私が委嘱されました。

微力な私には、この大任は重いものでしたが、同窓会の一助にもなればとお引き受けしました。

以来、財政の充実と事業の活性化や、支部・年次の強化に努めてきました。

また、知道会（水戸一高同窓会）との姉妹提携協約の締結完了。母校創立120周年記念事業の完成。更には永年の懸案であった「会則改正」も議決されました。

これらについては、会長副会長さんはじめ、役員各位の絶大なるご支援やご指導をしていただきましたことを深く感謝申し上げます。

今後、同窓会の一層の発展と会員の皆様のご健勝を祈念し、退任のあいさつと致します。

秋高39会新聞『秋高謳歌』は、平成7年7月7日創刊されます。
皆様の御投稿を歓迎します。

秋高39会『秋高謳歌』新聞委員会　〒010　秋田市山王6－9－25　TEL&FAX(0188)65－3299

編集／桑野　浩　　企画／秋山秀昭　　構成／赤沼　侃　　監修／鈴木　諒

秋高八十期会総会開催

（昭和29年卒生）

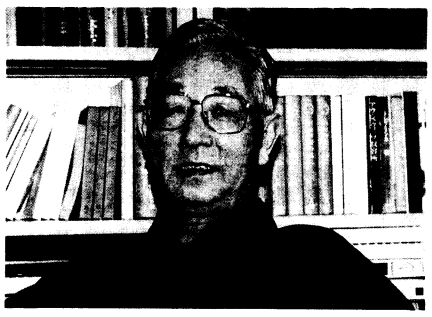
日　時　　平成7年9月16日（土）
場　所　　さとみ温泉（秋田温泉）
行　事　　母校訪問、還暦お祓い、懇親会

記念誌「紫雲遙かなり　―駅前の青春―」の原稿をまだ提出していない方は、事務局へ至急送って下さい。　出欠報告、詳細事項については、別途ご案内いたします。

インタビュー 勲二等瑞宝章 博士号取得 秋高新校長 長年の努力実る

丸山会長に聞く

（昭14）



丸山　健会長

平成七年春の叙勲で勲二等瑞宝章の栄に浴した。固辞したが古巣の静岡大から学長経験者で断った例はないと言われ、「九十八歳の母親にせめてもの親孝行ができれば」と思い直し、夫人とともに参内した。

もともと照れ屋である。「教育研究功労といっても格別のことをしたわけでもないし……」。自らの業績については多くを語りたがらない。突出した扱いをしないことを条件にこのインタビューに応じてもらったことからも氏の人柄が窺い知れる。今回同じ勲二等瑞宝章受章者の中に元フジクラ会長の加賀谷誠一氏（S十七年卒）がいる。「民間人間で勲二等を受賞するというのは滅多にないことだそうです。ああいう人こそ称賛に値すると思います」。恬淡として嫌味がない。

東北大在学中に憲法が変わった。当時わが国を代表する憲法学者だった清宮四郎東北大教授の門下で憲法を研究する道を選んだのは「変わったばかりの新憲法なら研究者のスタートは一緒だったから」。その後で「清宮教授が温厚そうに見えたのも大きな理由のひとつかな」。いたずらっぽい目が眼鏡の奥で笑った。

以来、政党法の研究を通じてドイツとの深い付き合いが続いている。オランダハーグで活躍している清宮門下生の国際司法裁判所副所長小田滋、東大元教授の樋口陽一各氏の家族らと、毎年蔵王で会うのを楽しみにしている。もっとも最近はスキーは夫人任せ、ご本人はもっぱら美酒に酔いしれている時間が多いとか。

暇があれば好きなゲーテ全集を紐解く読書家は昔も今も変わらない。

紙上インタビュー

校長　松岡正樹

（昭30）

一、母校の校長先生おめでとうございます。先生は母校ご出身の校長先生ですが何回回帰されましたか？

「いやー、秋田高校の校長など恐れ多くて考えたこともございません。

秋高の校長の偉大さを身にしみて感じておりましたので、そんなことを私ごときが考えること自体冒瀆であると正直思っておりましたから。……

四回目の秋高というのは生徒として（昭和30年卒）、社会科の教師として五年間、教頭として約二年間、通算10年間お世話になり、今回は11年目の勤務ということになります。」

二、先生が教諭時代の生徒諸君と現在の生徒諸君ではどうですか。変わっていますか？

「そうですね。スマートになりつつありますね。

エネルギッシュな感じが次第に消え、より知的に優しくなってきていると思います。よいことかどうかは別にして。

これは秋田高校に限らず一般的な傾向と思います。」

三、秋高生にどういうことを望みますか。むかしから秋高は文武両道といわれていますが、文の方、武の方はどうでしょうか？

理想をお願いします。

「秋田高校を支える教育理論はむかしから変わらないと思います。

一つは〔品性の陶冶〕つまり人間教育です。

そのうえに二つ目として〔学力の充実〕があり、三つ目として〔心身の錬磨〕があるのだと思います。

難関大学に入るだけの学力も、甲子園出場に象徴される部活動の高いレベルもその根底に秋高独特の全人教育がなければなりません。

このことを大切にしていきたいし、これが秋高の変わることのない理想だと思います。」

四、先生の日曜日などの休日の過ごされ方をお聞かせ願います。

「そうですね。これといった高尚な趣味もございませんので、屋敷内の僅かな家庭菜園の手入れとか、たまに海に釣りにでかけるとかまた、家内が高山植物を見るのを楽しみにしておりますので、ぶらりと一緒に山に登る程度ですね。」

五、先生はヤスパースの言葉を引用して『汝、今何をなすべきか』を強調されましたが、秋田高校の校長として今何をなされるおつもりですか？

「いやー、よいことを聞いてくれました。

名誉職はできるだけお断りし、内政重視ですね。

第一に生徒の心をつかみ、やる気を出させること。

第二に職員の共感をよび、モラール（士気）を高めること。

第三に同窓会の支持を得ることだと思います。

この三つができたらほぼ合格ではないでしょうか。

あくまで、謙虚な姿勢で努力したいと思います。」

七年度同窓会東京支部総会田口耕一氏（昭10卒）撮影

校長　松岡正樹氏

サケ母川回帰研究

工藤雄一

（昭33）

サケの母川回帰の研究を二十五年間にわたって取り組んできた昭33卒の工藤雄一先生（聖霊高校教諭）の研究論文が東大大学院の審査をパス、理学博士の学位を授与された。英語でびっしり書かれた研究論文を手に苦労話を語ってくれた。

☆まず、最初にお喜びのことばを一つ。

―そうですね、今まで色々な方々と一緒に自然科学の研究活動をしてきて、博士号を持っていないのは私だけでしたから、何か、ようやく一人前の研究者として認められたということでしょうね。うれしいです。

☆この研究をなされる動機などをお知らせ下さい。

昭和40年代後半において魚類の脳波の計測方法は、世界中で魚を筋弛緩剤で不動化し、神経系は生かしたまま魚体をバンドで固定し、口から水をそそいでエラを灌流させた状態で手術をし、目的とする脳の部位に電極を挿入して計測する方法をとっていました。私の着想は「もし、魚が自由に泳いでいる状態で脳波などの生体データが計測できたら今よりはるかに正確に、魚類の行動を神経行動学的に解明できるのではないか。」というものでした。

☆苦労話の一つとして何かありませんか。

ないないづくしが最大の苦労だったと思います。まず能力が無いのを棚の上にあげますと、研究費が無いこと、研究のための時間を思うように取れないこと、研究のための文献が思うように集められないこと、学会発表やシンポジウム参加なども限られること、部品などの調達に時間がかかること、などなどきりがありません。

自宅の書斎にて　1994

☆二つめとしても博士論文は外国語で書いたということですが、そちらの苦労話を一つ。

一般的なことは良くわかりませんが、博士論文を外国語で書くことを義務づけている大学院は少ないのかもしれません。東大の理学系研究家は外国語を義務づけています。しかし、博士論文は、これまで書いて国際専門誌に載った論文でまとめるものですから、特に今回苦労したというより、長年にわたって書いた論文で日本語のものはないのですから、むしろ博士論文というまとめよりも、それまでに個々の論文を書くときに苦しかった事、真っ黒に訂正が入り、自分の書いた部分がほとんどない原稿に呆然としたことなどがほろにがく想い出されます。

☆先生はパソコンが得意でそれを同窓会の名簿作成に生かしているようですが。

パソコンは得意ではないのですが、そもそも、パソコンがまだ無かった頃に、同期会である秋高三三会の創設時から、会を運営していくためには、名簿が活動の中心的財産であることを認識していたことが、その後の親会である秋高同窓会の活動に入っていくきっかけになっていると思います。

名簿委員長として、諸先輩の仕事を受け継ぎ、各年次の名簿委員の方々と一丸になって、少しでもいい名簿ができるようにがんばっていきたいと思います。

☆この研究を高校教育に生かすとすれば。

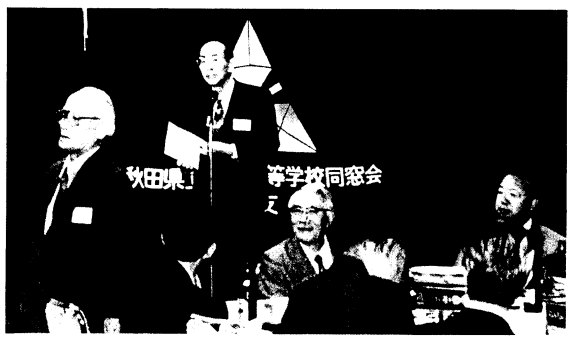
私の研究のように、マイペースで細々と25年間も続けてきた事から思うことは「継続は力なり。」という格言です。このことを自分の言葉として言えるような気がすることです。小さな努力の積み重ねがとても重要だよと言ってやることができるような気がすることです。しかし、そんなことは、わざわざ言わなくても今まで一度もあいさつをした事のない生徒まで「先生おめでとう。」と言ってくれた事で十分、私は満足しています。またがんばります。

秋高生はオウムにはならない

秋田高校同窓会 東京支部総会　開かる

秋田高校同窓会の七年度東京支部総会と懇親会が、5月26日、東京・池袋の東部バンケットホールで行われ、同窓約七十名が集まった。

司会の柳田政彦氏は最近とみに活躍中の花の昭39卒で、「年初めから阪神大震災、オウムの狂気と大きなニュースが続いているが、今日はそれらを吹き飛ばして、飲んで歌ってさつ。最高齢の大13卒早川實斉氏の音頭で乾杯。席上来賓の松岡正樹校長（昭30）が「秋高生は勉強もきちんとやっているが、伝統の文武両道に励んでいて、人間教育の根底となる品性の陶冶を第一目標に掲げているので、オウムには入らないし、非人間的なことはやらない」と述べて拍手喝采を浴びた。また本部の田口能祐事務局長（昭22）から同窓会の近況が報告された。



秋田さきがけ新報提供

酒宴の途中、前東京外語大教授の奈良毅氏（昭26）から「インドの言語研究をしているので、オウム真理教に絡んでホーリーネームの由来などの質問がある」。秋田高卒業生では珍しい俳優の粟津號（昭39）は、「これからは、私のようなわき役が注目される。四月から独立して事務所を持ちました」などとユーモアを交えて近況を述べた。

後は、秋田県下北手出身の座長さんが束ねる「喜都会」社中の皆様による秋田民謡―唄と踊りの夕となった。三味線・太鼓の音が都の空を焦がしていく。

昭10卒の田口耕一氏が誰にいうともなく呟いた。「秋田高校はええ学校だ。わたしら仙北の田舎者だがよくしてくれた。最高の高校だよ。あんな学校はないな。入って良かったよ」

昭和37年卒　首都圏同期会

94年10月22日（火）、昭和37年卒業首都圏の同期会が行われた。幹事は例年通り伊藤清信、川口哲延両氏にお願いして、会場はコパークラブ（秋田大学北光会東京支部）をお借りした。

女子3名（過去最高）を含めて出席者は19名。母校の夏の甲子園での活躍、120周年の記念講演に、同期の菅原正博氏が講演したことなど、話題が盛り上がった。

（佐藤皓一記）

秋高80期3G還暦を祝う会

80期3年G組「還暦を祝う会」は2月18日担任菅原繁雄先生を招いて開かれた。参加者は21名。

まず神前でお祓いを受け健康と発展を祈願し、記念撮影、幹事挨拶、先生の祝辞、そして阪神大震災の大阪から参加した島田君の発声で乾杯、祝宴に入った。

先生の奥様手製の眼鏡ケース15個をめぐって「メガネ入れ争奪、あみだくじ」を行い一気に盛り上がった。引き続き一人ひとりが近況や抱負を披露。どれも四十年の経験に裏打ちされたユニークなもので抱腹絶倒する場面も多かった。「それぞれの分野で活躍し、第二の人生でも個性的な生き方をしているのを聞いて大変嬉しい。」とは先生の感想。

例によって菅原先生が志貴皇子の懽の御歌と王維の七言絶句「送元二使安西」に加えて、私達の還暦を祝って作られた短歌三首を朗詠して下さった。

最後に、肩を組み、校歌を斉唱し、来年も元気で会うことを誓ってお開きとなった。

（小島記）

つどい

昭和十一年卒（第四十九期）馬羊会の集い

首都圏内で構成されている馬羊会の集りが、4月28日に横浜で催された。〝馬羊会〟は名の通り午・未年生まれの同級生からなるので、今年は〝喜寿〟にあたり、めでたい節目のときと言えよう。

話題は健康報告に始まり、闘病の体験談、趣味、生き甲斐を求めてのそれぞれの取り組みの披露となった。

関西から出席の栗谷、泉両氏からは阪神大震災における生々しい被災の模様が伝えられた。災害のこわさを忘れかけていた私どもには貴重な教訓となった。

宴たけなわになって生前の戒名のことや墓地のことなど、にかく今度は〝傘寿〟まで健康で生きのびようと誓いあい、又の再会を約束した。

最後に校歌を高らかに合唱して散会した。　伊藤馨記

当日の出席者

井川　雄治（狛江市）
泉　義一（茨木市）
石田　正（習志野市）
小田部精一（武蔵野市）
貝塚　吉雄（大和市）
今　行雄（板橋区）
栗谷　廣（大阪市）
桜庭庄左エ門（鎌倉市）
田中　廣吉（我孫子市）
丹下　敬一（文京区）
三神　正孝（横浜市）
三浦　功（つくば市）
伊藤　馨（秋田市）

横浜ランドマークタワー68階にて撮影

昭44年卒　岩崎雅典氏・鈴木正昭氏の受賞祝賀

―― 桜谷吾郎先生を囲んで

恩師桜谷吾郎先生をご招待し、一面で紹介した内閣総理大臣賞の映画監督岩崎雅典氏と新田次郎文学賞の直木賞作家鈴木正昭（ペンネーム西木正昭）氏の受賞祝賀会が、昭和44卒の同期生（約40名）によって、東京・NHK青山荘で盛大に開催。倉田東平氏の名司会、薄金宏太郎氏のあいさつ、武田正夫氏の乾杯で、お二人のご受賞を心から祝福した。

古村精一郎先生作詞、山田耕筰先生作曲の名歌「緑の美酒」が歌われ、一同で最後に斉唱した「天上はるかに」の校歌は、いつまでも東京の空に、感動的な余韻を響かせた。

秋中十九年会卒業五十周年記念同期会

8月26日、56名が参加して、〝卒業50周年記念秋中19年会同期会が行われた。

初めに、水心苑、パーク美術館、セリオンを観光、展望室の眺望に一行息をのむ。

続いて浄願寺において秋中一九年会物故者69名の法要を厳かに行った。

そして母校訪問。校舎、同窓会館見学後、記念撮影。

最後にバスはさとみ温泉へと向かい、総会、懇親会が盛大に催された。話は尽きず、会は大いに盛りあがり、万歳三唱をもって楽しい一日をしめくくった。

於　浄願寺

第四十一回全県高校総合体育大会

六月二日から六日まで県南地区を主会場に行われ、バドミントン女子単・柔道個人軽重量級・ボート舵手付きフォアとシングルスカイがインターハイの出場権を獲得した。また、六月十六日から十八日、雄和町の県営陸上競技場で行われた第五十回東北高校陸上競技大会の結果、陸上競技が千六百メートルリレーでインターハイのキップを手にした。

〈陸上競技〉
【男子】▽百㍍⑥桂雅宏
▽四百㍍⑥堀江宏伸
▽四百㍍リレー⑥堀田一久・工藤聡・村上景太・桂雅宏
▽千六百㍍リレー②桂雅宏・眞井田宏影・櫻庭一馬・堀江宏伸
【女子】▽砲丸投げ⑤伊藤明夏 ▽やり投げ⑥伊藤明夏
▽四百㍍リレー⑤中山絵里奈・伊藤明夏・新野香子・駒野亜希

〈バレー〉
▽2回戦
秋田2―0能代西
▽3回戦　秋田0―2秋工

〈柔道〉
【男子】▽団体決勝トーナメント1回戦　秋田3―0大曲同 2回戦　秋田5―0金農同 準決勝　秋田0―1大農東北大会出場決定戦
秋田2―0角館
▽個人軽重量級①佐藤久喜
【女子】▽団体予選リーグ
秋田1―2能工、秋田3―0花輪、秋田1―0大農
▽個人72㌔級②小武海智美

〈剣道〉
【男子】▽団体準々決勝
秋田2―2湯商工同 準決勝
秋田3―2秋工
▽同決勝　秋田2―3秋商
【女子】▽団体予選リーグ
秋田2―3本荘
秋田0―3湯商工

〈バスケット〉
▽1回戦　秋田103―53高専
2回戦　秋田78―72由利工
3回戦　秋田87―63湯商工
準々決勝　秋田61―42秋工
準決勝　秋田59―56中央
▽決勝　秋田48―96能工

〈卓球〉
▽団体1回戦
秋田2―3花輪

〈サッカー〉
▽2回戦　秋田3―0西仙
▽3回戦　秋田3―0新屋
▽準々決勝
秋田0―1秋南

〈ラグビー〉
▽1回戦　秋田33―0鳳鳴
▽2回戦　秋田5―78秋工
▽5位決定戦
秋田17―12経附

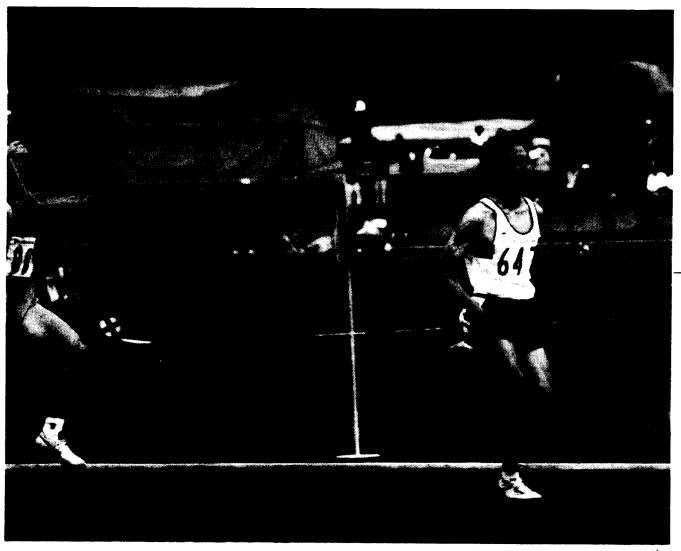
〈バドミントン〉
【男子】▽団体2回戦
秋田3―0高専同 準々決勝
秋田0―3能商
【女子】▽団体2回戦
秋田3―0鷹巣同 準々決勝
秋田3―0和洋同 準決勝
秋田3―2城南
▽同決勝　秋田1―3新屋
▽個人単②佐々木千尋
▽個人複③佐々木千尋・小川亜幸子

〈テニス〉
【男子】▽団体1回戦
秋田1―2秋工
【女子】▽団体1回戦
秋田0―3経附

〈ソフトテニス〉
▽1回戦　秋田2―1角館
▽2回戦　秋田0―3能代
〈弓道〉
▽男子団体準決勝（20射）
秋田7―9湯沢
▽同東北大会出場決定戦
秋田6―6新屋
（競射1―2）

〈ボート〉
▽シングルスカル①佐々木純也
▽ダブルスカル③安藤智彦・安宅倫広
▽舵手付きフォア①門間圭紀・島康介・斉藤新・佐々木智彦・高堂裕志
2回戦　佐々木0―2西城（宮城・聖ウルスラ）

〈ボート〉
▽舵手付きフォア　優勝
▽シングルスカル　準決勝進出



『マイルへの情熱』

入部以来、「マイルへの情熱」を部活の雰囲気の中で感じ続け、レース前に「これを落としたら人生終わりだ」というほど緊張している先輩を見ては、「そんなおおげさな」と思うと同時に、その情熱をさらに感じておりました。そして、東北大会で予選、準決と進み、遠い夢だったインターハイが近くにみえてきた時、先輩のあのような思いを実感として理解することができました。インターハイで走る自分達の姿が目の前にちらつき、全身がしびれるほどの緊張感にも襲われました。

東北大会決勝。エースのいないメンバーでの戦いでした。しかしそれがかえって、一人が一人分の仕事をして、信頼の気持ちをもって次走者にバトンを渡すという好結果をもたらしたのだと思います。

大野先生は日頃から「今年はインターハイへ行くぞ」とおっしゃっておりました。その言葉は、私にとって大きなプレッシャーでした。そして、インターハイ出場が決まったとき、それは大きな喜びに変わりました。

インターハイでは、「県高校新記録」を目標にしてさらにタイムを伸ばしたいと思っています。

（陸上部主将　堀江広伸）

白根選手（剣道）に特別表彰

全県総体・剣道男子決勝、秋田―秋商の先ぼう戦で、秋商の選手が試合中、竹刀を落とした。ルール上、相手が竹刀を落としても一打だけは許されるが、本校の白根康互選手は一撃も加えることなく、礼法にのっとって竹刀を拾い上げ、相手に差し出した。県剣道連盟は勝敗を度外視したこのフェアプレーをたたえ、特別表彰、日本刀一振りを贈った。

思いがけずに決勝戦に進み、試合中は緊張のしっぱなしでした。相手に一本取られてからは、焦ってはいたものなんとか落ち着いて一本取り返そうと思っていました。そんな中で、相手が竹刀を落とした瞬間ははじめ何が起きたのかよくわかりませんでしたが、ややして相手の竹刀がこちらの足もとに落ちていることを知りました。自分がどういう心境でそりませんでした。日頃の礼法指導が身にしみていたのでしょうか。ごく自然に竹刀を拾い相手に手渡していたのです。

白根選手

しかし、特別賞をいただき、新聞紙上でも評価され改めて武道の精神に思いをいたした次第です。

今後も、顧問の目黒先生のご指導のもと、礼法に則って一層剣道に精進していきたいと思っています。

東北選手権

平成七年度東北高校選手権大会が六月二十三日から二十五日（陸上は十六日～十八日）まで行われ、ボート部が舵手付きフォアで初優勝した。

〈陸上競技〉
▽千六百㍍リレー　5位

〈柔道〉
▽団体予選1次リーグ
秋田2―1青森北
秋田2―1盛岡大付
▽同2次リーグ
秋田0―5好間（福島）
秋田0―3経附

〈バスケット〉
▽1回戦　秋田64―92仙台

〈バドミントン〉
▽女子単1回戦　佐々木2―0安木（盛岡第三）同
▽2回戦　秋田0―3能代二（宮城第1）

夏に期待 硬式野球

春季中央地区大会ベスト4、春季県大会準優勝、そして春季東北大会ベスト4と、後藤光尊君（二年）を エースとする秋高ナインの活躍が目ざましい。七月十六日から第七十七回全国高校野球選手権秋田大会が始まる。甲子園への夢がふくらんできた。

＝春季中央地区大会＝
▽2回戦　秋田1―0新屋
▽3回戦　秋田10―3男工（七回コールド）
▽準決勝　秋田3―7経附（延長十回）
＝春季県大会＝
▽2回戦　秋田10―3湯商工（七回コールド）
▽準決勝　秋田7―2金農
▽決勝　秋田6―15経附
＝春季東北大会＝
▽1回戦　秋田11―8専大北上（岩手第1）
▽2回戦　秋田6―4羽黒（山形第1）
▽準決勝　秋田3―10仙台二（宮城第1）

中央支部総体

〈陸上競技〉
【男子】▽百㍍2位
▽四百㍍2位
▽四百㍍障害1位
▽四百㍍リレー1位
▽千六百㍍リレー1位
▽走り幅跳び3位
▽走り高跳び1位
【女子】▽走り幅跳び2位
▽やり投げ1位
▽砲丸投げ1位

〈バレー〉　準優勝

〈サッカー〉　優勝

〈ラグビー〉　3位

〈バドミントン〉
【男子】▽団体　準優勝
▽単1位　▽複2位
【女子】▽団体　準優勝
▽複2位

〈柔道〉
【男子】▽団体　準優勝
▽重量級1位　▽軽重量級1位　▽中量級1位　▽軽中量級2位
【女子】▽72キロ級1位
▽56キロ級1位

〈剣道〉　3位

〈弓道〉　3位

〈ボート〉
▽舵手付きフォア　優勝
▽ナックルフォア優勝
▽シングルスカル1位
▽ダブルスカル3位

ボート部が春の全国選抜大会で
準　優　勝
（舵手付きフォア）
詳細は次号で

全県高校軟式野球 春季大会

▽準決勝
秋田4―6秋工

第四十一回 吹奏楽定期演奏会

吹奏楽部定期演奏会が五月二十四日、四時三十分から県民会館で行われた。演奏曲目は、オリジナル、ポピュラー、ジャズ、クラシック曲と多方面に及び、観客を大いに楽しませてくれた。

定演後は、秋高祭・吹奏楽コンクールに向かい、一段と熱の入った練習が続く。

放送　今年も全国へ

第三十六回秋田県放送コンテストが六月十一日と十三日に行われ、放送部が次の部門で全国大会の出場を決めた。

▽アナウンス部門＝伊藤奈都子（最優秀賞）、工藤紅、庄司知恵子
▽ラジオ番組自由部門＝「夢をあきらめないで」
▽創作ラジオドラマ部門＝「さら」

会務事業報告

4・14　第一回企画委員会
4・25　第一回当番年次打ち合わせ会
5・10　第一回広報委員会
5・11　第一回財政委員会
5・16　第一回名簿委員会
5・19　旧東肥羽城会
5・26　東京支部総会
5・29　第二回広報委員会
5・30　第二回財政委員会
6・2　第一回正副会長・参与・委員長会議
6・13　会計監査
6・17　宇都宮支部総会
6・22　第一回理事会
6・27　鹿角支部総会
7・5　大曲支部総会
7・16　通常総会・支部長会議

哀悼

謹んで哀悼の意を表します。（敬称略）

2月　大和　正輝　S35
3月　三浦喜代治　S29
平　進　S7
久保田仁人　S55
藤原慶三郎　S14
東海林広司　S17
藤原七郎　S14
5月　青崎不二太郎　S11
長門　敬治　S12
石塚喜栄治　S46
小島　徹　S46
6月　斎藤善次郎　S5
山脇　健

事務局だより

同窓会事務局では、初代事務局長桜谷吾郎先生の後を受けて、六年間事務局長の重責にあった伊藤守一先生が、この四月をもって任を退かれた。先生は一大イベントの秋高百二十周年の諸行事を成功に導かれ、また全会員会費制を敷かれるなど、同窓会発展のため多大な功績を残され、三代目の22年卒田口能祐氏に引き継いだ。

一、5月16日に行われた名簿委員会で、残っている「同窓会名簿」について話し合いをし、今後、次の金額で頒布することにした。

在校生二、一年とその父兄には、二千円。

二、「秋高創立百二十周年記念誌」（千五百円）も四百部程残っているので、欲しい方に次の金額一冊七百円、郵送料必要な場合、千二百円でお分かちすることにした。

二冊とも是非お手元にお備え下さい。